



OB会事務局長退任と サッカー協会会長就任のご挨拶

48回生 関佳史



関は2024年1月の総会をもって、湘南高校サッカーディビジョンOB会の事務局長を退任しました。

私が手がけてきた「湘南現役情報メール」の発信や「湘南蹴球百年史」の発行について多くの皆様から賛辞をいただけたことを大変うれしく思っています。また、百周年記念の協賛金へのご協力など、本当にありがとうございました。

OB会の運営では、相羽克治さん(41回)に教わるところが大でした。元会長の柳川明信さん(27回)が発想した「会則はつくらない」という考え方を、相羽さんが継承してきました。現役のサポートを目標とし、会則がなくても会の運営は議論を積み重ねれば可能という考え方です。これには、湘南高校サッカーディビジョンでの共通体験がベースにあります。

OB会の活動は、横山会長と藤塚さんの体制で新たに船出を迎えるました。ゆくゆくは教員監督で実績を積んだ藤塚さんが中心となって教え子の皆さんと一緒に活発な活動を展開するものと期待しています。

さて、私は2023年6月に一般社団法人神奈川県サッカー協会(以下県協会と略)会長に選任されました。1929年創立の県協会は旧制湘南中学が創立のオリジナルメンバーであり、湘南の卒業生が継続して理事などに就任し運営に貢献しています。また、

恩師の鈴木中先生は、県協会を大きく発展させました。このあたりの詳細はHPに掲載のOB会報40号、42号をご参照ください。私が県協会会長という大役を拝命したのは、湘南高校サッカーディビジョンOB会の経験があったからです。

県協会では、現在、3名の湘南サッカーディビジョンOB会出身者が活躍しています。久保徹さん(55回)がシニア部会副部会長、苑田浩之さん(64回)が裁判委員・顧問弁護士、櫻井大輔さん(79回)が関東ビーチサッカー連盟事務局長、県協会ビーチサッカー担当です。

1999年4月～2007年3月の間、湘南高校の教員だった桐原(旧姓寺尾)純子さんは、理事で女子部会長です。桐原さんはバレーボールの専門家でありながら、2004年の第1回スペイン遠征に参加しました。その後、サッカーの審判として研鑽をつまれ、現在では1級審判、Weリーグも担当しています。本職は高校の教頭先生というスーパーな方です。桐原さんの推薦で、湘南79回の永井未希さんが県協会の監事を務めています。永井さんは湘南女子バレーボール部主将で桐原さんが顧問という関係です。永井さんの本職は弁護士です。

県協会では、常勤する役員は有給ですが、理事・監事は原則として無給です。(会長はほぼ無給です) ボランティアに近い活動によって支えられています。県協会は4万6千あまりの選手登録者を抱え、大会運営、サッカーの普及、選手、審判、指導者育成など多岐にわたる事業を展開、加えて「かもめパーク」という自前のフットボールセンターを運営しています。事業を円滑に継続するため、法務、税務、財務、不動産管理などに詳しい人材の確保が必要

です。それも、ほぼボランティアで。湘南高校サッカー部 OB・OG の皆さんから、今後県協会に協力する人材がでてくることを願っています。

また、県協会は「一般社団法人」です。株式会社の株主にあたるのが正会員です。株主と異なり、正会員は総会では1名1議決権のみを保有します。現在、正会員は114名です。鈴木中先生が、同世代や後輩を誘って正会員を増やましたが、高齢化に伴い、正会員の減少が顕著です。サッカーを支える一手段として、湘南サッカー部 OB・OG の皆さんにも正会員となっていただけすると幸いです。会費は1年間2万円です。

スポーツの魅力は「する=選手」「みる=サポーター」「ささえる」と多岐にわたります。サッカーはプロアマ同じ組織で、この3要素が系統的に展開されています。「ささえる」は、審判、指導者などが中心ですが、OB会活動、県協会の活動もこれに当てはまるのではと思います。鈴木中先生は、教え子が生涯何らかの形でサッカーと関わって行くことを望まれていました。OB会員各位もいろいろな角度からサッカーに関わっていただければと思います。

昭和23年福岡国体で 準優勝だった14名の絆

26回生 前田 正晶

この国体に我々湘南高校 14名はキャプテン早川忠生さん(24期、後の小林さんで、メルボルンオリンピック代表)の下に、全国制覇を目指して満を持して出場した。だが、後にJFA会長となった長沼健氏等の広島師範附属高校に0対1で無念の準優勝。その早川忠生さんの音頭取りで、往年の顔ぶれが1990年に入って再集結し、サッカーを楽しむようになっていた。

この会の発足当時は「全国制覇し損ないの会」と称していたが、「湘南サッカーの会」と改称された、言うなればあの当時

を懐かしむ親睦の会。尚、幹事役は当時のマネージャーだった大藤一郎さん(24期)が引き受けて下さっていた。

始まりは1990年代後半からだったよう。当時は小林さん、下文博さん、原田徳夫さん(以上24期)、小田島三之助さん、香川稔さん、川島元信さん、斎藤昭夫さん(以上25期)、酒井助弘君、佐々木孝君、鈴木美暢君、前田正晶(以上26期)に、新制湘南高校 OB の栗原克夫君(27期)、末永直君(28期)等以外にも若手が参加で11人にしていました。

残念だったのは、早川さんと共に中心選手だったCH・原田徳夫さんは体調を崩されて試合に参加されなかった事。原田さんの素晴らしいは、関東協会の幹部竹腰さん、有馬さんも認めておられ、小林さんが「岡野俊一郎氏(元JFA会長)が、原田が大学一部リーグで続けていれば日本のサッカーの歴史が変わったかも知れないと残念がっていた」と我々に繰り返して聞かせて下さった事が良く表している。

我々も年齢には勝てず11人のサッカーを続けられなくなり、村岡にあったフットサル場で楽しむようになった。フットサルになっても衰えを見せない往年の高度な技術は観衆を集めほどで、「どういう方々ですか」と感心させていたものだった。それもそのはずで小林さんと小田島さんは戦後初のドルトムント遠征のメンバーに選ばれていたのだから。

慶應大学の元キャプテン・酒井君が慶應大学・女子フットサル部を招待したところ、その驚異的なスピードと技術に翻弄されて0対9と惨敗。このように我が国の女子のサッカーの進歩を体験させられて、「なでしこ」のサッカーが世界的な水準に達している様子を窺い知ることができたと思う。このフットサルも2018年頃から昼食会に変わり、皆で湘南サッカーの過去と現在を楽しく語り合うようになっていた。

最終回は2017年9月20日に藤沢駅前の「銀座アスター」で開催され、小林さんから「今回で最後にしよう」と告知された。そこには、次代に引き継いで貰えようと、嶋田武夫君(28期)以下も何名か参加して貰って終わりとすることになった。



第108回湘友会セミナー報告 「宇宙旅行で何をしたいですか?」

Sky Deer代表取締役社長、Space Quarters宇宙技術統括
62回生 田中 敦

2024年8月11日(日)に開催された標記セミナー
講師はサッカーチームOBの田中 敦さん(62回)が務め
られました。以下に概要を掲載いたします。

■セミナーの講演概要

今は1週間程度の宇宙旅行をするのに約40億円かかりますが、2050年代には100万円程度で宇宙旅行ができるようになると予測されています。このことが実現するには、ロケットによる移動費と宇宙ホテルでの滞在費の両面で革新的な技術による価格破壊が必要です。



移動費については、イーロン・マスク氏が起業した米国のSpaceX社が開発するロケット(スターシップ)により、スペースシャトルの1/300にコストダウンする目途が立っています。スターシップは人類が火星に移住するために開発が進められている人類史上最大のロケットで、完全再利用型です。このロケットは火星への人類の輸送だけでなく、飛行機に代わって都市間を結ぶ新しい輸送システムとする計画もあり、これにより地球上のほとんどの都市間を30分以内に移動することが可能となります。

(<https://www.youtube.com/watch?v=zqE-ultsWt0>)

滞在費については、価格破壊を起こす技術革新がまだ起きていません。2030年に運用停止となる国際宇宙ステーション(ISS)に代わって、米国の民間企業等が独自の宇宙ステーションを打上げて運用する計画を進めていますが、ISSと同様に地上で製造したモジュールを打上げる方式のため、設計自由度が低く、打上げロケットによる制約が大きいため、大幅なコストダウンができない状況です。

この状況にブレークスルーを起こすべく、日本のSpace Quarters社が軌道上で大規模な建築を可能とする溶接技術の開発を世界に先駆けて進めて

います。この技術により、軌道上で自由な大きさ/形状の建築が低成本で可能となり、滞在費面でも価格破壊を起こせます。

こうして、SpaceX社の輸送技術、Space Quarters社の宇宙建築技術により、2050年代に100万円で宇宙旅行に行ける時代がやってきます。

■現役学生に向けて以下のエールを送ります。

- 根拠のない常識に捉われないで、やりたいこと・情熱を持ち続けられることを探してください。
- 日本は狭いです。若いときから世界に飛び出して駆け回ってください。

(湘友会セミナー報告書より、藤塚が抜粋しました)

ペガサス70活動報告

45回生 浅倉 泰

ペガサス70は基本的にO-70とO-75の2チームに分かれて活動を行っていますが、毎週火曜日に行われている交流会で月1回チーム対抗のロイヤルリーグが開催されます。この日に限り湘南ペガサスとして70歳以上のメンバーと一緒にボールを蹴る事が出来ます。幅広いメンバーと一緒にプレー出来る様に工夫して、85歳以上の紫色ショーツの競技者に対しては2m以内に近づいてプレー出来ない等の特別ルールを作成して皆が楽しく怪我のないプレーが出来る様にしています。

1. O-70の活動

今年度は加盟チーム数が増えて県リーグが10チーム2回戦で18試合、神奈川シニアリーグが11チーム1回戦10試合でリーグ戦の順位を競っています。10月末段階の戦績は県リーグが1勝2分10敗で9位、シニアリーグが2勝2分3敗で6位と厳しい戦いを強いられているのが現状です。シニアリーグには他県登録或いは他チームのメンバーが加わって選手層の厚みがありますが、県リーグの方は試合によつては参加メンバーが11名ギリギリ場合もあります。し

かし、年明けには得意とする県議長杯トーナメントがありますので、上位を目指して臨みたいと思います。

対外試合はGリーグ、エコパ、千葉マスターズ、東日本ロイヤル等に参加し、時にはヘルプメンバーなども加わって頂きサッカーと同時に宴会も大いに楽しんでおります。

2. O-75の活動

O-75スーパーロイヤルリーグ(通称 SRリーグ)については昨年度から正式に始まり、O-70の公式戦に不参加の方、或いは出場時間の少ない方で75歳以上を対象としています。



このSRリーグは、チームを赤、緑、黄、青の4つに分けて、ペガサスのメンバーもそれぞれ異なるチームに所属することで、他チームとの交流や友好が深まるのが楽しみの一つです。各チームはそれぞれ年間18試合とフレンドリー数試合を行っています。さらに、積極的に参加する85歳以上のメンバーには「頑張ったで賞」などの表彰も行われています。来年度には90歳になる方もおり、O-75の若手から見れば、まだ15年間もサッカーを楽しめる環境が整っているという事です。

県外大会へのエントリーは基本的には交流会を中心となり神奈川代表チームとして参加しますが、唯一ペガサス75の単独チームで参加するのが東日本ロイヤルエイジ大会です。

今回参加予定者は17名になりますが、O-75であるため、怪我や病気のリスクを考慮すると、多ければ多いほど安心です。実際、大会直前に怪我などで参加できない方も出て来ますので友好チームのメンバーにも声掛けして参加者を募る場合もあります。

毎年参加しているこの大会では、選手同士や審判へのリスペクトが重視されており、怪我をしない・させないためのルールが厳格に定められています。スライディングタックルやショルダーチャージの禁止、ヘディングの競り合いの禁止など、全てが安全第一の観点から運営されています。11月の大会ですので、年末の会報が発行される頃には無事に大会が終了していることを願っております。

トーラス65活動報告

49回生 菅浦 義治

今シーズンも引き続き監督の大役を仰せつかっている49回生菅浦が2024年度の活動報告をします。まずは、チーム名を「トーラス 60」から「湘南トーラス 65」へ変更しました。その理由は、兄弟チーム(1クラブから複数チームのエントリー)のチーム名ルール緩和により「湘南」を名乗ることができ、メンバー全員が65歳以上で頑張っていることを誇示するために「60」から「65」へ変更しました。

このチーム名で、2024年度のKSSLリーグ戦に臨みました。昨シーズンは5勝3分け5敗という比較的好成績で、今シーズンはさらに良い成績と意気込んで臨みましたが、途中経過は昨シーズンからの課題であった得点力不足と不運な失点が相重なって1点差負けや引き分けが続き、10月末現在で片眼が開かずという状況です。残された数試合で何とか片眼を開けたいと頑張っている状況です。

しかし、結果は芳しくなくともチーム全員で全力を尽くして戦った結果であり、湘南ペガサスの信条である参加者全員が出場して満足するようにマネジメントしてきたので、シニアのサッカーは勝ち負けだけではないとも思っています。

公式戦は以上ですが、最近のシニアサッカーは公式戦(KSSLリーグ・全国シニア)だけでなく、県内各地で練習会が実施され、我がチームのメンバーも積極的に参加するようになり、また、チーム内でグラウンドを確保して練習会も行うようになり、少しづつですが公式戦以外にもサッカーをする機会が増えてきました。

そのようなサッカーをする環境が変化するなか、この会報をお読みいただいて、久しぶりにサッカーをしたいと少しでも思った方、是非その重い腰をあげてご連絡ください。久しぶりなので怪我



等の心配がある方は、蹴球祭や夏のOB会でお試しいただいて、その後上記の練習会に参加いただいた後、湘南ペガサスへの加入はいかがでしょうか。

チームのメンバーに湘南高校サッカーチームのOBも少ないので現状です。サッカーをして、試合後の美味しいビールと一緒に飲みましょう。



2024年度のペガサス60は26名の選手で活動しています。今年度もこれまでと同様、神奈川シニアサッカーリーグ(KSSL)六十雀リーグを主戦場に、神奈川県サッカー協会シニア部会のO-60リーグにもトーラスとの合同チームで参加しています。



昨年度はKSSLの1部リーグでは12チーム中の8位に終わりましたが、トーナメント戦である県議長杯で2位となり、上位4チームだけが参加できるチャンピオンシップである丸尾杯に久しぶりに出場することができました。丸尾杯でも決勝まで進み、決勝も1-1からのPK戦で勝ち、優勝することができました。勢いをもって臨んだ2024シーズンでしたが、まったく波に乗ることができず、KSSLでは現在1勝7敗1分けで、残念ながら早々と来シーズンの2部降格が決まってしまいました。O-60リーグでもいい試合を開しながらも1勝4敗と結果の出ない状態です。

このように、昨年度の丸尾杯優勝から今年度の2部降格決定と浮き沈みの激しいチームですが、メンバーはみな前を向いて次の試合に向けてそれぞれ心身の準備をしています。公式戦以外にも、練習会、練習試合、懇親会などチーム力を向上させたり親睦を図ったりする機会も作っています。今年度は、早期の1部復帰目指して清水遠征などの計画も立て始めています。

ペガサス60では、全員の力で勝利をつかむことを

モットーに、参加者全員がゲームに出場して試合を楽しむことを大切にしています。もちろん、加入されたばかりで体力に不安のある選手は、まずは5分、次の段階では10分・・・というように、無理のない出場時間と強度で身体を慣らしていただくようにしています。

いろいろな意味で生活の切り替えが必要になってくる60代は、人生の中でもなかなか難しい時期ではないでしょうか。そんな中、サッカーを生活設計の柱の一本として組み入れることは思っていた以上に生活に張りと潤いを与えてくれます。

チームには少年サッカーの指導などでサッカーを継続されている方、他のチームでサッカーを楽しまれていた方もおられます。他方で、サッカーから長く離れてしまっていて体力や技術に自信がなかった方、参加するまでは「60歳を過ぎて今更サッカーなんて」とお考えだった方も多くおられます。最初5分間の出場からスタートして、いまではフルタイムで走り回る体力、往年の技術を取り戻した選手も多くおられます。サッカーを続けるうちに身体も変わってきます。ペガサス60の仲間はみな紳士で気持ちのいい方ばかりです。そんな仲間と気持ちのいい汗を流す楽しさは格別です。

さあ、昔の仲間ともう一度同じチームで試合や練習を楽しみませんか。今年度の登録者のうち、湘南高校サッカーチームのOBは全体の1/3にとどまっています。湘南高校で過去にサッカーと共にし、その面白さを知っている多くのOBのみなさんがペガサス60に参加され、また一緒にボールを追って走ることができますよう、願っております。

少しでも関心を持たれた60代のみなさん、まずは藤原(khb03502@nifty.com)までご連絡ください。



ペガサス50の代表を務めさせていただいている大隈です。ペガサス50では神奈川県シニアサッカーリー

ゲ五十雀3部(以下「KSSL」と)
全国シニア選手権予選 O-50 神奈川リーグ(以下「O-50」)の2つのリーグに所属しています。今季は60歳を迎えた4名が卒業しましたが、50~52歳の若手5名が加入し、KSSLは24名、O-50は60代の助っ人参加も可能な為、27名で活動しています。



KSSLでは、2部昇格(2位までは自動昇格、3位は2部チームとの入替戦)を目指していますが、昨季までの3年間は、3位(入替戦敗退)→4位→4位と後少しの所で昇格できないでいました。今季は新加入の若手の活躍もあり、開幕から(1位チームとの)引き分けを挟んで6連勝で来ました。最終戦で2位を争うチームとの直接対決で敗れ、一次リーグは6勝1分1敗の3位、上位3チームでの最終順位決定戦でも1分1敗で最終順位も3位となり、自動昇格はありませんでしたが、入替戦には臨めることになりました。入替戦は11月下旬に行われる為、本原稿執筆(10月末)時点では結果が出ていませんが、来年のOB会報で良い報告ができるようにしたいと思います。尚、その前に結果を知りたい方はKSSLのHP(<https://kssl.or.jp/>)をご覧ください。

一方のO-50は全37チームを4ブロックに分けて行われる為、KSSLでは1部に所属するチームなどレベルの高い相手が多く、1試合を残して1勝6敗(9チーム中8位)と苦戦していますが、レベルアップの為の練習と割り切っています。

ただ、チームの一番の目標は「全員がサッカーを楽しめること」で、どんな試合でも参加者全員が出場することにしています。もちろん試合に勝てれば嬉しいですが、それよりも勝った喜びや負けた悔しさも全員が共有できることを大事にしています。中には社会人になってから子供の付き添いをきっかけにサッカー始めた方などもいますが、試合に出場し続けることで上達し、さらには得点するなどの活躍をしてくれたりもします。そういう時こそチーム全員が喜び合えるのです。

現在チームには湘南OBは5人だけです(私が代表に就任したのも2年前に前代表の霜田さん

海外転勤により当時は湘南OBが私1人だけになつたからということもあります)が、大学、職場、地域のサッカースクールなどでの繋がりから様々なバックグラウンドを持ったメンバーが参加してくれています。皆、真摯にサッカーに取り組み、チームのことを一番に考えて行動できる気の良い人達です。確かに湘南OB同士なら共通のサッカー観があるので、すぐに連携することができますが、他校出身者の方が加わることで異なるサッカー観を取り入れて、より多様なサッカー文化を醸成できているように思います。もちろん湘南OBの方達に参加していただけますと大変心強いので、そろそろまた湘南サッカーに復帰したいと考えている多くの皆様のご参加を是非お待ちしています(参加希望の方は下記アドレスにメールください)。

★連絡先:t_okuma_shonan@yahoo.co.jp

ペガサス40 次世代承継と絆

69回生 浜崎 武洋

今季の活動についてご報告いたします。今季で代表3シーズン目となります。

ペガサス40は、主に土曜日に開催される全国シニア選手権予選 O-40 神奈川リーグ(以下、全国シニア)に「湘南ペガサス40」として参加しています。現在、全国シニアの2部リーグ(A・Bの2ブロック、各11チーム)に所属し、1部昇格を目指して戦っていますが、年々チーム数が増加し、元プロ選手の加入も増えているため、リーグ全体のレベルが上がり、昇格へのハードルが高くなっています。



2024年シーズン、ペガサス40は10月末時点で26名の選手が在籍しています。ここ数年で代替わりが進み、今年は40歳になるフレッシュな選手が加入し、チームに新たなエネルギーが加わりました。ゴールキーパーも1名補充され、2枚体制となり、競争の

原理により、守備力向上が期待できます。

また、湘南高校の卒業生が2名新たに加わり、非常に心強い状況です。さらに、昨年、湘南高校卒ではないものの、奥様が湘南高校出身というご縁で、横手涼君が加わりました。彼は大学時代に同じサッカーサークルでプレーしており、とても嬉しい再会です。また、我々の20歳先輩である菅浦義治会長(49回生)は、そのサークルの大先輩でもあり、現在もさまざまな活動でご一緒させて頂いております。このようなご縁が、チームの絆をさらに深めています。

今年の夏は猛暑の影響で、暑さ指数(WBGT)の基準によって3試合が中止になりました。これにより、リーグ全体の試合消化が滞り、県サッカー協会も試合調整に苦労している状況です。そのような中でも、運営を続けて頂いている県サッカー協会の主軸を担う、これまた湘南の大先輩にあたりますが、久保徹先輩(55回生)には、40代表として感謝の意を表します。

ここ数年のチームの課題は「得点力不足」です。この課題を克服し、チーム全体を活性化するために、運営体制を見直しました。これまで代表が全てを決めていましたが、若手に権限を委譲することで、チーム全体を元気にしていこうと考えています。副代表に藤田英峰君(73回生)、監督には小松原君、キャプテンに河辺君、副キャプテンには向君と三澤君がそれぞれの役割を担い、彼らのリーダーシップのもと、チーム運営を進めています。

ここ数年、チームとしては怪我人が続出しており、まず「健康であること」が最優先だと痛感しています。健康リスクに注意しながらプレーをしている先輩方を見ていると、ペガサスの最若手である我々はまだまだ負けていられないという気持ちが湧き上がります。

サッカーができる幸せを噛みしめながら、引き続き前向きにプレーを続けていきます。

今は仕事や家庭が忙しいけど、少し落ち着いたら、もう一度サッカーをしたい!

そのような方、いつでも大歓迎です!

"Never Too Late"(何を始めるにも遅すぎることはない)

トトカルチョ湘南 活動報告

82回生 篠塚 貴志

平素より大変お世話になっております。トトカルチョ湘南の篠塚です。今シーズンも神奈川県社会人リーグ3部(3Bリーグ)に参加しております。

今シーズンは10月末時点で1勝4敗、残り1試合という状況です。来年度の2部リーグ追加に伴い、今年度は3部からの昇格トーナメント戦がなく、3部リーグ上位2チームが自動的に昇格となります。昇格の好機ではありましたが、今年度も2部へ昇格することができないことが確定しています。残り1試合も格上の相手ではありますが、勝ってシーズンを終えたいと思います。より若い相手との試合で体力・集中力の差が出てしまったこと、それをカバーできるような試合運び・メンバー配置・交代といったチームマネジメントができなかったことが変わらずの課題であったと感じています。

公式戦以外の活動としては、県3部のチームや、シニアのチームと昨年よりも多くの練習試合を行いました。リーグ戦の戦果にはつながりませんでしたが、優位に試合を進められる相手との練習試合の中でボールを保持する時間を長く確保することで、メンバー同士のコミュニケーションと技術の維持向上につなげられたと思います。良い結果を報告できないまま、長い年月を3部リーグで過ごしておりますが、ここ数年はチームの一体感が増しておりますので、ぜひ結果につなげて行きたいと思います。

現在、85回生～93回生まで概ね各学年のOBに登録者がおり、湘南高校サッカーチームのコーチを務めたメンバーも多くおります。若手OB(特に大学生や20代前半)の皆様は登録している同期・先輩に声をかけていただき、気軽に参加して欲しいと思います。ともに同じグラウンドで練習をした仲間として先



輩・後輩の垣根なくコミュニケーションをとり、楽しく試合をしています。今後も継続して若手 OB の交流の場で有りたいと思います。幅広い業界の先輩がおりますので就職活動や人脈形成にも役立ててもらえば幸いです。

今後ともトトカルチョの活動に関心をもって頂けるよう取り組んでまいりますので、変わらぬご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願ひいたします。



こんにちは。神奈川県サッカー協会ビーチサッカー担当および藤沢ビーチサッカー協会の櫻井です。昨年度より、ビーチサッカーチーム「湘南スプレッド 1545」は活動休止しておりますが、ビーチサッカーの普及活動は続けておりますため、紙面をお借りして、日本や神奈川、藤沢のビーチサッカー情勢をお伝えさせていただきます。

2024年2月に開催されたビーチサッカーワールドカップでは、日本代表チームは予選グループを突破したものの、準々決勝にてブラジル代表に破れ、ベスト8となりました(ブラジルはその後、優勝)。大会後、5月には、これまで選手兼監督として、ワールドカップ準優勝の実績を作った茂怜羅オズ氏が退任となり、後任に、田畠輝樹氏が選出され、新チームがスタートしました。田畠新監督は、積極的に若手選手を試しており、次のワールドカップへの準備を進めています。田畠氏は、鹿児島実業出身、遠藤保仁選手と同期で、Jリーグでプロサッカー選手のキャリアを経て、ビーチサッカーに転身しました。当時、沖縄で活動していたビーチサッカーチーム「レキオス FC」が、2009年に「東京レキオス BS」となり、東京に進出して以降、「東京レキオス BS」のキャプテンとして、関東をけん引してくれました。環境整備の面では、東日



本リーグの立ち上げや関東リーグの立ち上げと共に進行きました。田畠氏は、日本代表の主力選手としても活躍し、選手引退後も、代表コーチとして、茂怜羅オズ選手兼監督を支えてきた経験があり、まさに日本のビーチサッカー界の第一人者と言えますので、納得の人選です。今後のビーチサッカー日本代表の活躍を皆さん是非応援お願いします。

国内の状況としては、全国リーグはまだ整備されておらず、各地域リーグの上位チームが参加する地域リーグチャンピオンシップと、トーナメント方式の全国ビーチサッカー大会の2大会が全国規模の大会となっています。2024年度は、全国ビーチサッカー大会にて、神奈川県のレーヴェ横浜が悲願の初優勝を果たし、地域リーグチャンピオンシップでは、台風の影響で、決勝戦が行われず、東京ヴェルディ BS とレーヴェ横浜が同時優勝となりました。

藤沢の鵠沼海岸では、全国の商工会議所青年部主催の「第 21 回全国サッカー大会かながわ藤沢大会」の中で、エンジョイビーチサッカー大会が開催されました。こちらは、11人制サッカー大会がメインであるものの、ビーチサッカー大会も含めていただき、藤沢・茅ヶ崎全 7 会場(鵠沼海岸含む)で二日間かけて、盛大に開催されました。また、例年通り、「第 9 回湘南藤沢ビーチサッカー大会」が同会場で開催され、今大会から、小学 6 年生の部に加えて、小学校 4 年のカテゴリーを新設し、早い段階からビーチサッカーに触れあう機会を創出しました。そして、2025 年には、「湘南藤沢ビーチサッカー大会」が記念すべき第 10 回大会を迎えます。こちらも記念大会としてよりグレードアップした企画を仲間と検討しているところです。

普及活動の当面の目標である「鵠沼海岸にビーチサッカー常設コートを作ることを目指し、毎年様々な方々との関係の輪が広がっております。引き続き、目標に向かい邁進していくので、OB の皆様には、引き続きご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願ひします。

今年度も、OB 会の皆様にはあたたかいご支援、ご声援を賜り誠にありがとうございます。

現役活動報告

代表顧問 屋比久 祐太郎

長年にわたり湘南高校サッカー部を指導されました竹谷睦先生、高谷哲二先生に変わりまして、4月より赴任し、サッカー部顧問となりました体育科・屋比久祐太朗と申します。伝統ある湘南高校サッカー部で指導ができること、責任を感じながらも大変嬉しく思っております。4月より部活動指導員の小柴氏をはじめとするスタッフ、OBコーチの梅澤コーチ、下村コーチ、そして選手・保護者の方々に支えていただきながら、今年度の公式戦を戦ってきました。またOBの方々が夏の集いや練習・試合に足を運んで応援してくださったことは、選手をはじめ、サッカー部として大きな力になりましたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。



が多い中で、最後までやり抜いてくれた彼らの姿勢は、後輩に大切なことを残してくれたと確信しています。結果は、Aチームが県4部4位、Bチームが県5部7位でした。総体や選手権と違い、負けたら終わりではないからこそ、「常に強い」ことが求められるのがリーグ戦です。年間を通じて勝ち続けるための準備やベースアップが必要であると改めて感じました。日常の質が選手権などの大舞台で結果に繋がることを痛感し、この質を上げていくためには年間を通して高い強度での試合が必要です。そのためにも来年度は昇格を目指して戦っていきたいと思います。

さて、リーグ戦終了後、新チームが始動しました。今年度は選手権2回戦まで勝ち残ったため、新人戦は1月のシード決めからの出場となります。この期間を使い、基礎基本の見直しと新たなスタイルの確立に向けて取り組んでまいります。また、OBの方々のご協力もあり、大学生との練習試合も控えています。高校年代だけでサッカーを捉えるのではなく、その先のステージにも目を向ける機会にしたいと考えております。

最後になりますが、今年度末には2年に1度の海外遠征が計画しております。OBの方々には多方面にわたりご支援ご協力いただきまして誠にありがとうございます。今年度もスペインに滞在し、練習・試合・試合観戦・観光・学校交流を行う予定です。このような貴重な経験ができるのも、OB会の皆様のご支援があってこそであると改めて実感しております。この場をお借りして御礼申し上げます。今後とも引き続きの温かいご支援をどうぞ宜しくお願い致します。

さて、今年度の結果ですが、総体予選のブロック決勝では、前半で退場者を出してしまい苦しい試合展開となりましたが、選手たちの高い集中力と気迫溢れるプレー、保護者、OBの方々の後押しもあり何とか2次予選進出を決めることができました。総体2次予選1回戦、三浦学苑との試合は、延長戦の末に破れ、課題が残る試合となりました。

総体予選での課題を克服すべく夏休みには、合宿での走り込みや、小柴氏による基礎基本の見直し、新しい戦術へのチャレンジなど選手権2次予選に向けた有意義な時間にすることができました。迎えた選手権は2回戦でK1所属の湘南工科に1-4と悔しい結果になりました。ただ、選手たちは最後まで諦めることなく走り続け、戦う姿勢を見てくれたのではないかと思います。目指した目標には届きませんでしたが、この経験を1,2年生が次に繋げてほしいと思います。

U18リーグには最終戦まで3年生が全員残って戦い切りました。選手権が終わって引退するチーム

現役生より

2年生 須藤 功大

今年度、現役報告をさせていただきます2年須藤功大です。

OBの皆様からの多大なるご支援とご協力により、私たちが日々全力でサッカーに向き合い充実した活動を送っていることに感謝しております。そのご支援



とご協力への感謝の気持ちを持って、仲間と切磋琢磨し、精進していきたいと思います。

また、今年8月の「夏のつどい」では、気象衛星「ひまわり」の開発に長年従事した田中敦さん(62回)による「宇宙旅行で何がしたいですか?」といったテーマの講演会を開いていただきました。自分の将来を考える良い機会であり、宇宙やロケットについての興味が深まるとても貴重な時間になりました。

今年度から前任の竹谷先生、高谷先生に代わり、屋比久先生の新体制となり、格上校との練習試合が増え技術やフィジカルの差を感じることで、選手ひとりひとりの課題に向き合える機会が増えました。

10月14日のK4リーグ神奈川朝鮮戦、K5リーグ市立幸戦を持って3年生が引退しました。今までチームを支えてくれた3年生24名の引退によって、2年15名、1年15名の計30名の新チームとしてサッカーチームの伝統を繋ぎ、チーム一丸となって戦っていきます。

日々の練習では基礎を徹底し、試合では湘南の強みである「粘り強い守備」と「集中力」を武器にした戦い方をすること、強豪校にも勝っていくような「走れる」チームになることを目指して日々練習に取り組んでいます。また、昨年度と引き続き練習メニューを選手個人が考え、試合で出た課題を練習に取り入れることで意図を持った質の高い練習を心がけ、選手間で話し合った課題をすばやく解決できるようにしています。また、「フィジカ

ル」の勝負においても負けないように体の使い方、走り方の向上に向けウェイトトレーニングや、食事を含めたコンディショニングや栄養指導などを最大限サッカーに還元できるよう各々が意識を高く持って取り組んでいきたいと思います。

今年はインターハイ二次予選進出を決め、延長の末惜しくも三浦学苑に敗れました。選手権は二次予選からのスタートとなり、夏休み期間の野沢温泉合宿では強豪校との試合に向けた守備からのカウンターを意識した練習や走り込みを行い、選手権に備えました。二次予選は初戦の横浜を下し、2回戦の湘南工科大付属に敗れ敗退となりました。インターハイ、選手権共に強豪校相手に力及ばず、悔しい試合を経験したことで、強豪校に勝利するためにはさらに日々の練習の質を高め、チーム全体としてレベルアップしていくことが重要だと考えます。勝ち上がるチームになるため一人一人が自覚を持って活動していきます。

最後になりますが、3月にはスペイン遠征があります。現地チームとの試合や現地のコーチの指導から日本とは違ったサッカーに触れることで吸収したことを、自分たちのサッカーに取り入れ成長していきたいと思います。また、スペインの学生と交流することでグローバルな視点を身につけ、サッカーだけでなく今後の人生の糧にしたいと思います。このような貴重な経験ができるのもOBの皆様、指導者、保護者の皆様のおかげです。部員一同温かいご支援には大変感謝しております。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。



現役戦績報告

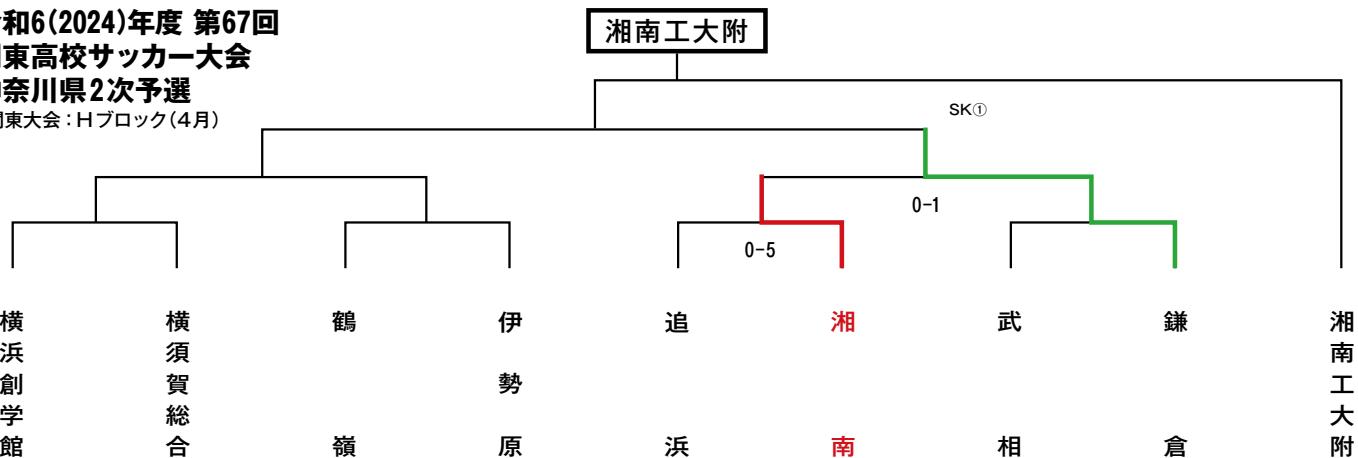
【総評】今年度の3大会とも勝ちきれない試合が続いてしまいました。どの試合でも好機はありましたが、『ゴールを奪う』『ゴールを守る』というゴール前での力強さの違いが結果に差を生んだように感じます。来年度はさらに勝負にこだわりを持って取り組んでまいります。

令和6(2024)年度 第67回

関東高校サッカー大会

神奈川県2次予選

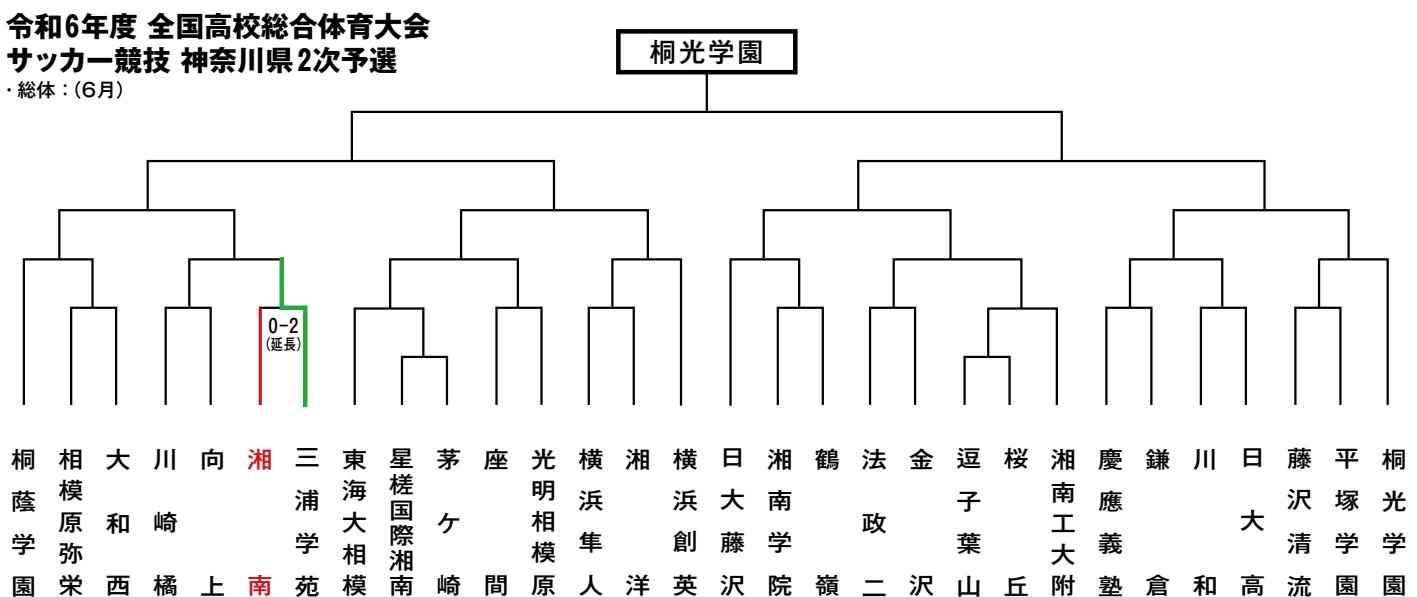
・関東大会：Hブロック(4月)



令和6年度 全国高校総合体育大会

サッカー競技 神奈川県2次予選

・総体：(6月)

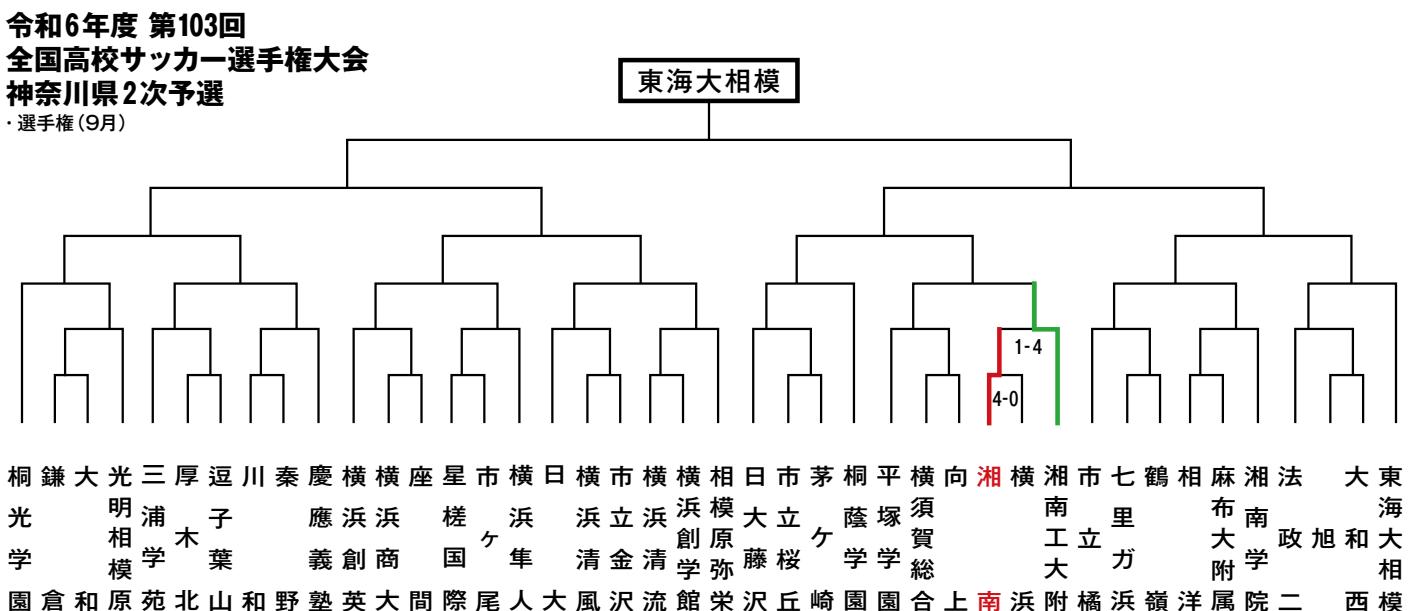


令和6年度 第103回

全国高校サッカー選手権大会

神奈川県2次予選

・選手権(9月)



令和7年度会費納入について

若木 均 OB会事務局 64回生

令和6年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしくお願ひいたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付をお願いいたします。

・社会人 1口 5,000円

・学生 1口 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は下記銀行口座(横浜銀行、ゆうちょ銀行)宛にお振込みをお願いします。

尚、お振り込みには卒業回を入れてくださいようお願いいたします。

(例)64回 若木 均 ⇒ 64 ワカキ ヒトシ

・横浜銀行 本店 普通預金 口座番号 019166 湘南高校サッカーチームOB会

・ゆうちょ銀行 湘南高校サッカーチームOB会

(ゆうちょ銀行口座からの振込) 記号 002109 番号0037313

(他の銀行からの振込) 029店 当座預金 0037313

令和6年度会計報告・令和7年度予算案

収 入		支 出	
項 目	令和 6 年度	項 目	令和 6 年度
会費・寄付	1,278,721	現役寄付	500,000
繰越金	3,887,788	蹴球祭	84,780
利子	236	印刷費	200,000
合計	5,166,745	通信・事務費	187,175
※令和 7 年度収入見込み 185名(社会人 145 名, 学生 40 名) $10,000 \times 105 \text{名} + 5,000 \times 40 + 3,000 \times 40 = 1,370,000$		スペイン遠征(積立)	450,000
		コーチ謝礼	250,000
		筑付高100周年式典費	30,440
		繰越金	3,914,350
		予備費	***
		合計	5,616,745
			6,004,350

令和6年度現役寄付・会計報告

収 入		支 出	
項 目	令和 6 年度	項 目	令和 6 年度
繰越金	0	遠征補助	33,000
寄付	500,000	トレーニング用品等	94,200
その他	0	筑波大附属定期戦	0
合計	500,000	会場・試合等	20,600
		参加費等	50,000
		海外遠征関連	20,000
		ボール	32,000
		コーチ費用	250,200
		合計	500,000

HP『湘南サッカー』運営担当の交代について

OB会副会長 前HP担当 浅倉 泰 45回生

長年に渡って湘南高校サッカーチーム、OB会、OBチーム「湘南ペガサス」の情報を提供して来たHP『湘南サッカー』の運営担当が交代しました。これを機にHP作成時の経緯を振り返ると同時に新担当に今後の運営と益々の発展を託したいと思います。

2001年のある日、当時神奈川県サッカー協会理事長を務めておられた鈴木先生(28年間に渡り湘南高校教員及びサッカーチーム監督)から突然我が家に電話が入りました。お前、湘南高校サッカーチームのホームページを作れと、私がパソコン得意としている事をどなたかから聞いて白羽の矢が立ったらしい。当時はOBチームの湘南ペガサス50雀リーグでプレーをしており、相変わらず先生のご指導を受けていましたので断れる訳がない。先生はどうやら、言いたい事、伝えたい事が山ほど有ってそれをHPを通じてOB、サッカー界へ発信したいとお考えになっていた様です。当初は簡単なページと先生からの投稿される文書だけで始まりましたが、開設当初は猛烈な勢いで「中メール」という形で投稿を頂きました。

2013年に私が定年退職を迎えたのを機にウェブデザインのセミナーに通い基本的な知識を身につけて、大幅なりニューアルを行い現在の『湘南サッカー』に至っています。メンテナンスを続けるうちに、このHPを湘南高校サッカーチームの現役とOBの為のアーカイブにしようと考え始め、過去のアナログデータをPDF化してHP内にコンテンツとして納めていきました。手前味噌になりますが高校サッカーチームのHPでこの様なサイトは例を見ないのでないかと自負しています。

皆様ご存知の様に鈴木先生は誠に残念ながら、一昨年米寿を前に(2023年7月)神奈川県サッカー協会名誉会長としてお亡くなりになりました。私自身も歳を重ねこのHPの運営をそろそろ次世代に引き継ぐ潮時かなと考えておりました。そこへタイミング良くITスキルをお持ちで安心して任せられる69回生浜崎氏が現れ、2024年3月末を持って引継ぎをする事となりました。現役でお忙しい方なので、出来るだけ手間のかかるOBチームのコンテンツは省き、本来の目的である現役とOBとの交流に絞った運営をお願いする事にしました。また現サイトはパソコン向けに作成されており、スマートフォン向けにリニューアルしなければと問題意識を持っていましたが、実現出来なかつたのでぜひ後任の浜崎氏に取り組んで頂きたいと願っています。OB会としても改修に当たっての費用については是非ご配慮頂きたいと思います。

OBの皆様は是非今後もこのHPから情報を得て、湘南高校のグラウンドへボールを蹴りに、あるいは現役生の試合会場に応援に行って下さい。また現役諸君は時にはページを開いて連絡と続くサッカーチームの歴史を振り返って頂きたいと思います。

最後にこれまでこの『湘南サッカー』を見守って頂いた皆様に感謝を申し上げますと同時にこのHPが時代の変化と共に益々発展して行くことを願っております。

【検索ワード：湘南高校サッカーチーム】

<http://www.shonan-soccer.com/>



今年も皆様のご理解とご協力をいただき、OB会活動、現役生への支援が滞りなく実施できたことに感謝申し上げます。

このOB会報第43号をお届けするにあたり、神奈川県サッカー協会会長の関様(48回)、レジェンドOBの前田様(26回)、「夏の集い」湘友会セミナー講師田中様(62回)をはじめ、OBチーム代表、現役監督、現役生徒からご寄稿をいただきましたこと、誠にありがとうございました。

2024年度は、竹谷先生の異動に伴い新しく屋比久先生が着任されました。これまでの竹谷先生のご尽力に感謝申し上げるとともに、屋比久先生にはそのお力を發揮できるようOB会として支援を惜しまないでゆきましょう。

屋比久先生にとって初めての経験となる2025年3月のスペイン遠征が現役生にとって有意義なものとなるよう、森様(48回)による英語研修会(全8回)を実施し、渡邊様(66回)には帶同ドクターとしてスペインに同行していただく等の支援を行っています。

OB会員同士の交流・懇親の会を毎年1月と8月に計画しています。現役支援だけでなくOB会員に向けた活動の充実も考えています。是非ご参加をいただき、ご意見・ご提案をお願いいたします。

歴代顧問の故岩淵先生(ガンさん)、宮原先生、故鈴木先生(ちゅうさん)、藤塚、清水先生、小林先生、竹谷先生に指導を受けた皆様の世代を超えた湘南サッカーを結集して現役に伝えてゆきましょう。

急募。湘南OBチームとして神奈川県リーグにエントリーしているペガサス40、50、60、70の各年代別のチームでは本校OBメンバーが減少し、チーム消滅の危機にあります。シニアサッカーにおける最古参湘南の伝統も繋いでゆけるよう皆様からのご参加をお待ちしています。

お知らせ

故鈴木先生の墓所は、鎌倉霊園3区12側3号(巡回バス停留所⑧の近く)となっております。

令和6年度 蹴球祭・総会のご案内

～旧交を温め、現役を激励しましょう～

期日：令和7年1月12日(日)

場所：湘南高校 清明会館(集会室)・グランド

時 間：09:30～11:00 幹事会【清明会館(集会室)】

11:00～12:00 総会【清明会館(集会室)】

12:00頃～ 受付【坂道の上】会費納入者にはお弁当をお配りします。

食事・着替え【清明会館(集会室)】

13:00～13:15 現役との対面式【グランド】

13:30～14:30 若手(原則40才未満)紅白戦【グランド】

14:40～15:40 OB(原則40才以上)紅白戦【グランド】

※今回は午前のグランドを確保出来ませんでしたので、全年齢とも紅白戦は午後の時程になります。